

■誌上発表 9

1 研究主題 不思議な立体をつくろう！ ～二つのメッセージ～

2 提案者 葛飾区立立石中学校 主幹教諭 太田 幸司

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

2種類の違った意味をもつ色や形を錯視の効果を利用し、一つの立体作品の中に同時に表現することで、作品のもつテーマをより浮き彫りにし、ユーモアのある、楽しい作品をつくりあげた。色や形の持つメッセージをより象徴的に、より直感的に訴えることで、ことばを超えた、インタラクティブな作品になると考えた。

4 学習の目標

- (1) 平面作品ではできない、立体造形ならではのしくみを使って、新たな表現方法を学ぶ。
 - ① 立体作品の、あらゆる角度からの視点を生かした表現を学ぶ。
 - ② 彫刻の基礎を学ぶ。
- (2) 一つのテーマを異なる色と形で表現することで、より印象的な作品づくりをする。
 - ① テーマを多角的な視点で捉えることができるようになる。
 - ② ユーモアのある親しみやすい表現を楽しむ。
 - ③ 色と形によるコミュニケーション能力を高める。
- (3) 錯視図形のしくみを学ぶことで、表現の幅を広げる。

5 評価の観点

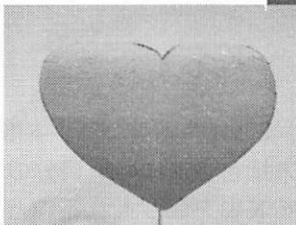
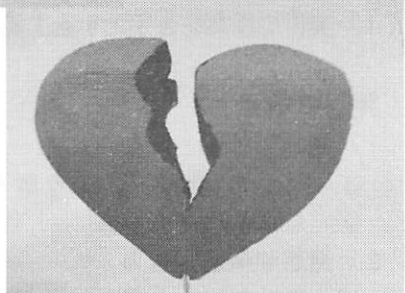
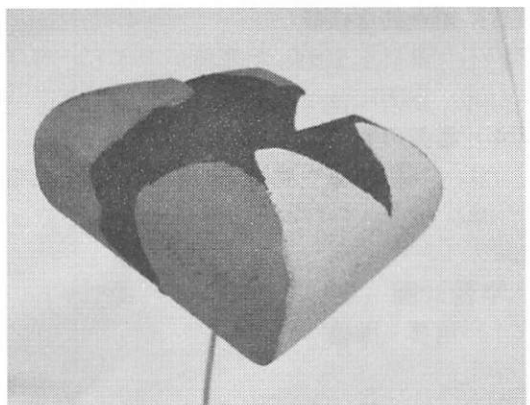
- (1) 関心・意欲・態度
 - 身近な錯視図形に興味をもち、意欲的に制作に取り組む。
- (2) 発想や構想の能力
 - ① 柔軟に発想し、複数のイメージから形と色彩をつくりだすことができる。
 - ② 色と形によるビジュアルコミュニケーションができる。
 - ③ 立体作品のもつ視覚の特性を生かした作品をつくることができる。
- (3) 創造的な技能
 - ① 彫刻の基本的な技法を利用して作品をつくることができる。
 - ② イメージに合った配色をし、効果的に仕上げることができる。
 - ③ イメージに合った造形表現を、効果的に利用することができる。
- (4) 鑑賞の能力
 - 相互に鑑賞しあうことで、より深い興味と関心をもち、互いの思いを伝えることができる。

6 学習計画（全6時間）

- (1) 用具・準備
 - ① 材 料 スタイロフォーム アクリル絵の具 ジェッソ 厚紙 針金 台座 紙ねんど
 - ② 道 具 スチロールカッター 紙ヤスリ カッター はさみ へら 筆 等
 - ③ その他 視聴覚機材 プロジェクタ テレビモニター 等

(2) 展開

次	時	学習活動	指導上の留意点
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ●錯視図形の鑑賞をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・地と図の関係 ・不可能な立体図形 ●今回の制作のねらいと目標を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●錯視図形の面白さで興味関心を引くと共に、地と図の関係や、隠し絵など、二つ以上の要素が、表現に幅を持たせる手だての一つであることを理解させる。面白さだけをねらうのではなく、印象的な表現方法の手段として捉えさせる。 ●今回のねらいは、印象的なイメージの伝達であることを強調し、何を伝えるのかをよく吟味し、アイデアを大切にさせる。

二	1	<ul style="list-style-type: none"> ●わくわくシートを利用して、発想を広げる。 ●アイデアスケッチをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●一人ブレインストーミングをワークシートを利用して行い、より柔軟な発想を引き出す。 ●アイデアが重要であることを強調し、何度もアイデアスケッチをさせる。
三	1	<ul style="list-style-type: none"> ●型紙をつくる。 ●スタイロフォームにAの型紙を貼る。 ●スタイロフォームを型紙に沿って、スチロールカッターで丁寧に切りとる。 ●切りとった破片を組み合わせ、もとの立方体に近い形に戻す。 ●違う方向から見た面に、Bの型紙を貼る。 ●型紙に沿って、スチロールカッターで切りとる。 ●全ての破片を取り除き、立体を取り出す。 ●紙ヤスリを使って、形を整形する。 ●形が欠けたりしたところは、紙粘土で補修する。 ●全体をジェッソで塗装する。 ●十分に乾かし、塗装する。 ●ニスを塗って仕上げる。 ●台座をつくり、ネームプレートを入れる。 ●針金でスタンドをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●スチロールカッターを使ってキレイに切りとるためには、型紙が正確に出来ないとならない。丁寧さを求める。 ●安全指導を十分に行い、やけどやケガをしないように、道具の使い方を指導する。 <p><正面></p>  <p><側面></p>  <p><斜めから見ると・・・></p>  <p>作例 題名「人の想い」 ・人の想いは、いつも喜びと悲しみが一緒になっていることを表した。</p>
まとめ	1	<ul style="list-style-type: none"> ●作品カードをつくる。 ●自分の作品を発表する。友だちの作品を鑑賞する。 ●鑑賞カードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の作品に題名をつけ、表現の意図や工夫を記入することで、制作をふり返る。 ●片面だけ見せて、何を表現したいか、ゲーム形式で発表をさせる。視聴覚機材を利用する。 ●友だちの作品を鑑賞し、感じたことをまとめることで、より多様な表現方法を学び、自分の表現活動に生かせるようにする。